銀賞　　可香　　葵君

北海道工業大学空間創造部建築学科　　生命の諧調

北海道東端の野付崎に計画されたランドスケープ化された装置はこの場所が持つ美しくも厳しい自然環境を受け入れながら可視あるいは不可視となり 海の潮位と現象を享受するための体感の場として美しく海面に横たわる。そのガラスの歩廊は潮位を読み取り設定されており満潮時には海面と同面になる。 繊細なドローイングはその情景を伝え一度は体現したいと思わせるほどである。ここで人間が持つ五感が改めて奮い立たてられ海面との距離感を感じながら ガラスの路を進む。この海に引かれたきらりと光る一筋の路は不変で有るが海の変化で多様化されるところにこの空間の美学を感じる。

（文責：小西　彦仁）